

目的とねらい

美術表現は「いま」を生きる人々の最先端の悪戦苦闘そのものです。同時代の暮らしの間近で展開しているさまざまな格闘を、ときどき確認することは、さまざまな課題や展望について考えるうえで、思いがけない示唆を得たり、ときにはこれまでの疑問や矛盾を解きほぐす手がかりをもたらしきっかけになるかもしれません。

今年は昨年につき、行き当たりばったりのギャラリー巡りに、身近な作家の仕事を一望する「座学」を組み合わせて、美術鑑賞を楽しむ講座にしたいと思います。

会場

①③⑤⑦は河原町学舎 ②④⑥は現地集合（集合場所は別途案内）

定員

15名

受講料

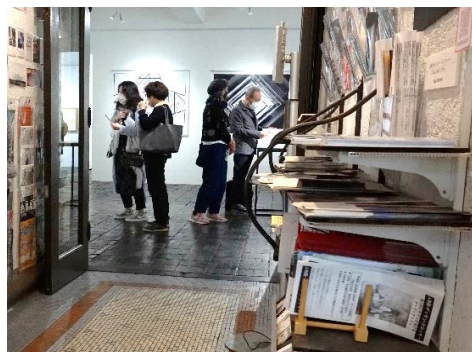
10,000円

講師

真鍋 宗平（造形作家・デザイナー）

日程

全7回 第2水曜日（雨天実施）
13:30～15:30



（日程等は一部変更になる場合があります）

①	第1講（講義） 美術鑑賞…「なまもの」を味わう「たしなみ」 美術館・博物館で鑑賞できる評価された美術作品の鑑賞から、現代京都の美術へと 小西熙さんの仕事。	4/12（水）
②	第2講（ギャラリー訪問） 京都市立芸術大学ギャラリー／京都芸術センター創作表現が「誕生する」ということ。四条烏丸界隈の文化創造空間。美術作品は消費され、生活環境にさまざまなさざ波をおよぼす。	5/10（水）
③	第3講（講義） 工芸という手仕事から広がる表現世界 京都の染織工芸の展開。井俣慶人さんの作品と先人の仕事。高谷光雄さんのメッセージ。	6/14（水）
④	第4講（ギャラリー訪問） 丸太町通を移動しながら／ギャラリー洛／ギャラリー恵風／など 御所がある都市の文化。前衛美術の攻防から 21 世紀という時代の行方。パンデミックから解放されて、やっぱり岡崎地域は観光の街へ？	7/12（水）
⑤	第5講（講義） さまざまな挑戦と展開 田中直子さん。宮田啓子さん。フルイ・ミエコさん 貴志カスケさん。	9/13（水）
⑥	第6講（ギャラリー訪問） また寺町・河原町・三条通界隈 果てしない矛盾の行方。拡張と変動にさらされながら。表現はいま。	10/11（水）
⑦	第7講（講義） そして、どこまでも続く創造の行方 「なまもの」としてご賞味いただいたのは、ほんの一例。お味はいかがでしたか。まだまだメニューは尽きません。引き続きのご来店を、お待ちしております。	11/8（水）